

CONTENTS

診療科紹介

[救命救急センター]

東京都区南部の救急・災害医療の最後の砦

[脳神経内科]

プライオリティパスで先端医療へ

[産婦人科]

骨盤臓器脱に対する最新治療 ～ 90 歳まで元気に生きる！～

[新生児科]

「胎児期からご家族に寄り添う新生児医療」
～リスクを抱えるすべての胎児と新生児に対応～

TOPICS

看護部 / 教育企画部 / ボランティア

Toho University Omori Medical Center
Public Relations Magazine

VOL.
007

おかげさん



OKAGESAN

大森病院 5 号館から富士山を望む

VOL. 007 2024 WINTER



“患者よし・地域よし・病院よし”の三方よしを目指し、
地域の皆様に大森病院の旬な情報を年4回でお届けする広報誌「おかげさん」です。



東邦大学
医療センター

大森病院

救命救急センター

部長 本多 満 ほんだ みつる



東京都区南部の 救急・災害医療の最後の砦

救命

救急センター
は救急患者
の中でも、最

重症の三次救急患者の診療を主として担当しています。大田区の東邦大学医療センター大森病院・救命救急センターの歴史は古く1978年に大阪大学、日本医科大学に続き3番目（他の2施設とともに）に国より認可されて開設されました。開設当初は、センターは講座には属することなく内科、外科および麻酔科より医師が出向して中央診療部門として診療を行っており、2003年に総合診療・急病科学講座が創立された際に、同講座の救急医学分野を担当して現在に至っております。

われわれの救命救急センターの仕事は、東京都城南地区の最重症患者である三次救急患者を年間1000〜1100名受け入れ、

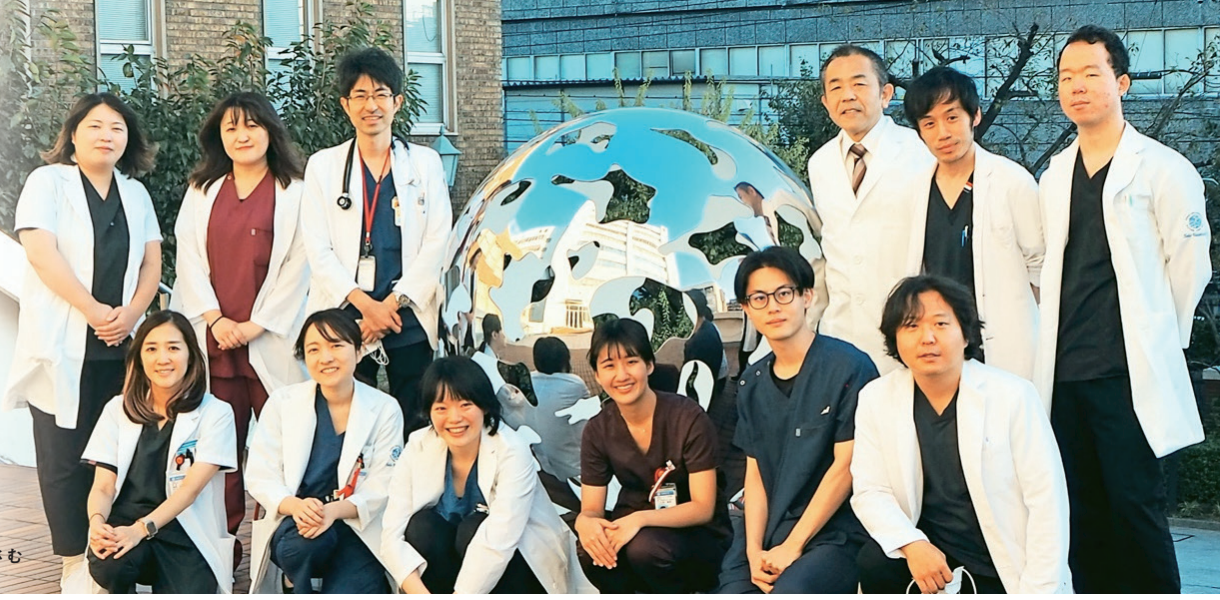
まさしく城南地区の「救急医療の最後の砦」として機能しています。患者さんの内訳は心肺停止と循環器疾患が約6割を占め、その他、外傷、脳血管障害、大動脈疾患、呼吸不全、消化管出血の順に多く、東京都内28救命センターの中でも上位の収容数を誇っています。近年、新型コロナウイルス感染症蔓延におけるコロナ禍において救急医療の逼迫する中、コロナ患者増加の際には、通常の三次救急と重症コロナ感染者に対する救急診療を両立しております。年間受け入れ数を維持しています。また、一般病棟においては急変する患者に対応する「Medical emergency team」、急変する可能性のある患者を監視モニタリングする「Rapid response team」、呼吸管理を要する患者を巡回する「Respiratory support team」などの実行部隊として院内での活動を他部署と連携し

ながら、診療科の壁を超えて行なっています。これらの多くの仕事を維持できるのは、他診療科、薬剤部、臨床工学部、リハビリテーション部および基礎医学の法医学教室との多職種連携により集学的な治療を可能としているからです。また、大田区と連携して想定される首都直下型地震に対する対策や災害訓練を行っており、災害時の危機管理にも対応する準備をしております。

このように救命救急センターは大田区に密着した医療を医師のみならず他診療科および多職種との連携により運営しております。さらに、救急医療は社会の動きに連動して、影響を受ける診療科でもあり、特に災害時などは、院内だけでなく院外その他施設医療機関や行政機関などの連携を大切に運営しております。

脳神経 内科

教授 狩野修 かの おさむ



プライオリティパスで 先端医療へ

脳神経内科の

プライオリティパス

「ドイツ・ニールランドには行きたいけど、待ち時間が長い！」という不満を解消してくれたのが「ファストパス」でした。このサービスが今年度から「プライオリティパス」として生まれ変わったそうです。当科でも、患者さんやご紹介して頂く先生方にとって身近でわかりやすい科になるよう、もの忘れ外来、脳卒中外来、パーキンソン病・運動障害疾患外来（PDKリニック）、ALSクリニック、英語対応外来の5つの「プライオリティパス」をご用意しております。これらのプライオリティパスは、完全予約制で待ち時間はほとんどなく、ご利用した患者さんからも大変喜ばれております。

神経変性疾患診療の

モデルプラットフォーム

お身体が不自由な方にとって、通院は大きな負担です。また検査のために別日にあらためて受診するのも大変です。そういった問題を解決したのがALSクリニックです。外来看護師・メディカルセラピストに加え、リハビリテーション科、呼吸ケアチーム、緩和ケアチーム、胃腸造設医、栄養士、ケースワーカー、チャイルドライフスペシャリストなど多職種の特任で構成されています。患者さんは同じ時間帯に同じ場所で効率よく、診察を受けることができます。ALSの患者さんが多いですが、呼吸器管理が必要な多系統萎縮症、筋ジストロフィーやADLが低下しているパーキンソン病患者さんなども対象です。こういったone-stop shop型のクリニックは

北米では100施設以上存在しております。当科のALSクリニックは2020年にアジア初のオフィシャルALSクリニックとして、北米のコンソーシアムから承認されました。

治験分野で日本のハブを目指す

日本の空の玄関、羽田空港に近いという恵まれた立地環境を生かし、まずは神経疾患の治験分野で、日本のハブを目指しています。詳細は、大森病院の治験臨床管理部HP https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/chiken/about_chiken/trial.html に記載されていますが、メガファーマからベンチャー企業まで多くの治験を実施しております。治験を通じて、近年問題になってきている日本のドラッグロスを解消したいと考えております。



骨盤臓器脱に対する最新治療 90歳まで元気に生きる！

産婦 人科の診療は、大きく分けると4つの分野で構成されています。

- ①妊娠や分娩を取り扱う周産期部門、②女性性器に発生した良性・悪性の腫瘍を扱う婦人科腫瘍部門、③不妊症を扱う不妊・生殖部門、④女性のヘルスケアを扱う女性医学部門です。当院産婦人科では、この4つの柱を中心に患者さ

んが満足される質の高い医療を心がけております。今回、女性のヘルスケアを扱う女性医学の分野の中でも骨盤臓器脱 (pelvic organ prolapse:POP) の最新治療についてご紹介させていただきます。

POPについて

POPは多数のリスク因子(代表的なのは分娩と加齢)が骨盤底組織(筋・神経・結合組織・腔)

にダメージをもたらし、これらの組織は、支えている骨盤臓器を支持できなくなり、多くは子宮脱と膀胱瘤等の組み合わせといった複数の臓器下垂を生じることになります(図1)。POPは女性の約30%に認められ、80歳までに骨盤臓器脱および尿失禁で外科的治療を受ける生涯リスクは約11%とされています。

骨盤臓器脱の症状

歩行時、重たいものを持った時、入浴時やしゃがんでいると時などに外陰部の違和感として、気付きます。症状が進むと何かピンポン玉くらいの、丸くて固いものが外陰部に触れるようになります。下がった臓器のため、引っ張られた感じや痛み、太ももの間に物が挟まったように感じます。外陰部から脱出した部分が常時下着などに接触し擦れると出血、帯下増加、化膿したりします。また排尿・排便障害の原因にもなります。

ロボット支援下

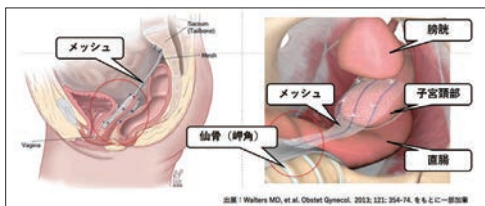
腹腔鏡下仙骨固定術

ロボット支援下仙骨固定術 (Robot-assisted sacrocolpopexy:

RASC)は、POPに対するロボット手術です。従来の治療方法と比較して再発率も低く抑えられるといわれています。本手術は、ほぼ全てのタイプの骨盤臓器脱に対して施行が可能です。仙骨固定術は、骨盤の深部で、ミリ単位以下の精度で縫合操作を多用する手術です。ロボットによって、手ブレや画面ブレなく、より自然な動きで縫合操作が可能です。2023年9月に当院において実施開始となっております。先生方におかれましては、骨盤臓器脱で手術希望の方がいらっしゃいましたら、是非ご依頼いただきたく存じます。



図1 骨盤臓器脱の種類



メッシュを用いた仙骨固定

新生児科

准教授 増本 健一 ますもと けんいち



「胎児期からご家族に寄り添う新生児医療」 リスクを抱えるすべての胎児と新生児に対応



わりフォローするという特色のある新生児医療を実践しております。ご紹介頂いたあらゆる胎児疾患について産婦人科と新生児科で診断にあたり、小児外科チーム、心臓外科チーム、脳神経外科チームなどと協力し、出生前から集学的管理を行っております。

重症の赤ちゃんの急性期治療だけでなく、状態が安定したあとの慢性期治療、退院に向けての育児支援なども行っております。また、病院を退院されたあとも、フォローアップ外来などを通じて長期的に赤ちゃんの発達を見守っていきます。

新生 児科は昭和56年の周産期センター設立から始まり、40年以上にわたり日本の周産期医療を牽引してきました。東京都大田区のみならず都内全域、神奈川県、埼玉県、千葉県などから治療が必要な新生児を受け入れており、年間入院数は約300件を超えております。これ

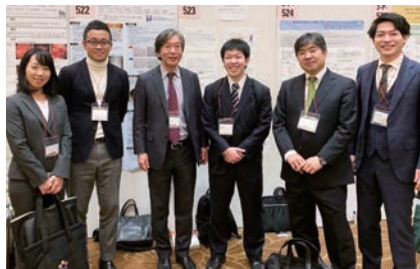
もひとえに地域で周産期医療に取り組まれ、母体と赤ちゃんをご紹介いただく先生方のおかげであると心より感謝しております。当院は新生児期だけでなく、生まれる前の胎児期からご家族に関

わりフォローするということの特色のある新生児医療を実践しております。ご紹介頂いたあらゆる胎児疾患について産婦人科と新生児科で診断にあたり、小児外科チーム、心臓外科チーム、脳神経外科チームなどと協力し、出生前から集学的管理を行っております。

た。東京都大田区のみならず都内全域、神奈川県、埼玉県、千葉県などから治療が必要な新生児を受け入れており、年間入院数は約300件を超えております。これ

もひとえに地域で周産期医療に取り組まれ、母体と赤ちゃんをご紹介いただく先生方のおかげであると心より感謝しております。当院は新生児期だけでなく、生まれる前の胎児期からご家族に関

重症の赤ちゃんの急性期治療だけでなく、状態が安定したあとの慢性期治療、退院に向けての育児支援なども行っております。また、病院を退院されたあとも、フォローアップ外来などを通じて長期的に赤ちゃんの発達を見守っていきます。



増本 健一

心がけてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部 （乳がん看護認定看護師）

川又 里美 かわたまた さとみ

『ひとりひとりの生活を尊重した 乳がん治療選択』 その方らしく生きるために

乳が

んは、現在、女性の罹患率第1位の「がん」であり、生涯において9人に1人が経験する時代となっています。そして、乳がんは最初の治療から、10年という長期間に渡って経過を診ていく必要がある疾患です。他の「がん」と比べ若くして発症する方もおり、結婚・妊娠・出産・育児・家族の介護・就業上の役割変化など、ライフイベントの中で治療を経験することになります。その間、患者さんやご家族は、再発・転移をされるかもしれないという不安や、治療によって外見が変化することで、「女性らしさ」に大きく影響するため治療の選択や継続などで迷い、悩まれることがあります。

乳がん看護認定看護師は、疾患や治療などについての最新の知識をもとに、常に患者さんの立場にたち一緒に考え、より良い方法を導き出せるよう支援を行います。主に外来治療がメインとなる乳がんは、多様化する副作用に対して、セルフケアをどれだけ効果的に支援できるかが治療継続への要になります。私は、乳腺・内分泌外科外来に勤務し、悩みを抱えた患者さんのお話をしっかり聴くことを大切にしております。検査や治療方法についての選択と一緒に考え、出現した合併症・副作用への対策を提案し、症状に応じた苦痛の緩和方法を医師や他の医療者と検討しています。

伝え、乳腺外科医師や院内のリップダクションセンターと連携して、患者さんの人生のQOLを考慮したがん治療に取り組んでいます。また、当院はがんゲノム医療連携病院であり「FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル」・「BRCA 遺伝子検査」や、2023年に保険適用となった「オンコタイプDX乳がん再発スコアプログラム」を適切な段階で患者さんへ伝え臨床遺伝診療部や、さまざまな専門家と共にチーム医療を行っております。

患者さんが『自分らしく生きる』ために、大事にしていることは何なのか、その方らしさを実現できるように今後も支援を継続していきたいと考えております。

妊孕性温存の情報提供が必要となる場合は、診断時に患者さんへ

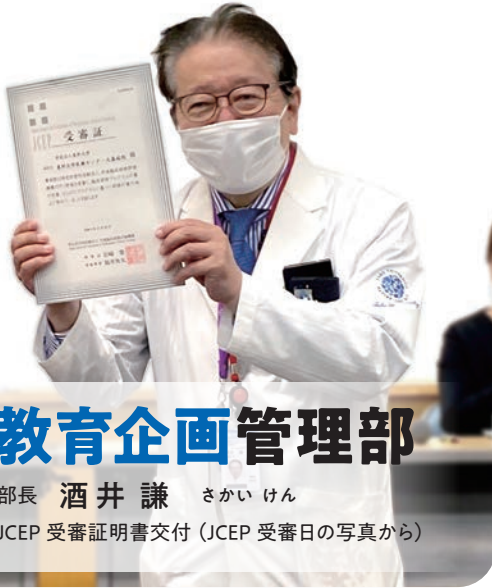
初期研修医 360度評価 について

今般

お礼かたがたお届ける情報で
させていただきます。

以前の「看護の日」改め「感謝の日」となずけて、6月29日木曜日に地域の方々への健康イベントを開催いたしました。梅屋敷梅交会協同組合からも梅屋敷商店街 代表理事柿沼様の多大なるご協力をいただきました。当日は梅屋敷コミュニティーセンターをお借りして、およそ90名の地元の方々 が来られました。血圧、血糖、体重

BMI計測、体脂肪計測、健康相談を開催し、同時に参加した初期研修医への評価もいただきました。東邦大学ではより良き臨床医を育てるために、初期研修医の教育プログラムに、360度評価をとり入れ高く評価されているところです。これは研修同志の評価、指導医からの評価、指導医への評価、医療スタッフからも同様に双方向評価、さらに患者さまからも評価を受けて若い研修医の成長の糧にするものです。特に病院施設は地域医療の要であるばかりでなく、地域の方々があつてこそその立地ができる自覚を大切に考えています。次年度もよろしくお願いたします。



教育企画管理部

部長 酒井 謙 さかい けん

JCEP 受審証明書交付 (JCEP 受審日の写真から)

あるばかりでなく、地域の方々があつてこそその立地ができる自覚を大切に考えています。次年度もよろしくお願いたします。

大森病院「感謝の日」について



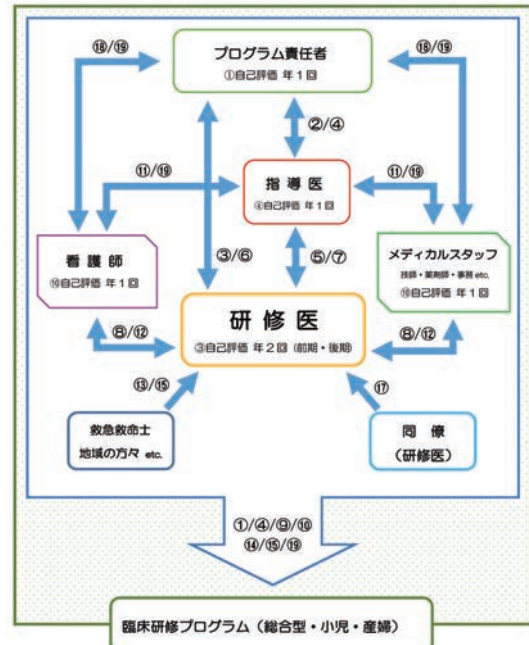
血圧、体重、BMI計測、地域健康相談実施

6月29日(木) 12時00～、梅屋敷コミュニティーセンターにて「感謝の日」を開催いたしました。研修医や看護部、事務の方にご協力いただき、無事に終える事ができました。ありがとうございました。

以前は「看護の日」でしたが当日は90余名の方々もご寄ってくださり、初期研修医の方々にも地域貢献を体験していただきました。



東邦大学医療センター大森病院 研修医評価実施状況 (2023年度)



ボランティアの活動紹介

園芸

こん

にちは。ボランティア
アルームです。

今回は「園芸」についてご紹介いたします。

大森駅行きバス停から徒歩30歩。左手に小さな花壇があるのをご存知ですか？ 赤・白・黄色の可愛いお花たちが咲いています。また、少し広めの1号館の中庭、こちらにも可愛いお花たちが咲いています。

これらは、「園芸」担当のボランティアのみなさまが、手塩にかけて育てているお花です。当院のボランティア活動は、原則月曜日から金曜日となっています。しか



し、昨年はまれにみる猛暑続きゆえ、がっちりシフトを組み、土・日・祝日もフル稼働でお花たちにお水を与えました。おかげで、秋の植え替えの時まできれいなお花を咲かせてくれました。

他の分野と異なり、直接患者さん・ご家族と接する事のない「園芸」担当のみなさま。病院に来る人々に少しでも癒しと安らぎをと思いい、日々奮闘しています。花壇の中で作業しているボランティアスタッフを見かけたら、是非声をかけて見て下さい。



INFORMATION

東邦大学医療センター
大森病院

Omori
Ota
Tokyo



<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>

郵送させていただきます。ご不明な点につきましてもお気軽にお問合せください。(M・N)



初診受付時間

月曜日～土曜日（下記休診日を除く）
8:30～11:00（一部を除く）

休診日

第3土曜日・日曜日・祝日・
年末年始（12月29日～1月3日）・
創立記念日（6月10日）

臨時診療日

1月8日（月・祝）
平日診療体制といたしますが、診療予約のない方は「休日加算」を適用いたします

臨時休診日

1月27日（土）

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年中は、大変お世話になりました。

本年も高度医療を提供することを意識し、地域の一員として役割をしっかりと果たせるよう努力して参ります。引き続きよろしくお願ひいたします。

今季は暖冬で通年の12月であれば、ダウンコートを着ている人がいる時期に20℃を超える日もあり、街中には半そで姿の人まで見受けられました。暖冬ですと、花粉の飛散開始が早まるそうで、私もですが花粉症の人にはつらく憂鬱な季節が近づいてきます。またマスク生活が始まりますが、頑張つて乗り越えていきましょう！

さて、この度『医療連携証』を製作いたしました。スタンドまたは吊り下げも可能なW148×H105×D48の大きさとなっております。当院の取組みにご賛同いただける医療機関に向けて配布させていただきますので、ぜひ地域医療支援センター(03-3762-6616)へご連絡ください。後日『医療連携証』を郵送させていただきます。